

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

## キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『里山と里海の恵みを次世代へ  
自然の恩恵から生まれる森林健康サービスの構築』

活動団体の活動地域：広島市・安芸太田町

活動団体名：特定非営利活動法人

広島横川スポーツ・カルチャークラブ

中間支援主体名：一般社団法人

地域商社あきおおた

# 活動団体と地域の紹介

## 地域の紹介

- 安芸太田町は平成16年10月1日に加計町、戸河内町、筒賀村の2町1村が合併して誕生。
- 町の面積のうち約9割が森林。
- 地域内は標高差があり、山・川・湖と四季折々に多様な地域資源が存在。
- 国の特別名勝三段峡、県内最高峰の恐羅漢山などを含む各スポットにおける森林浴効果が科学的に実証された「森林セラピー基地」に広島県で初めて認定されており、その他自然や伝統文化を活かした体験プログラムなども充実。

## 活動団体の紹介

- 広島市内及び中山間地域の発展に寄与することを目的として、地域住民や国内外旅行者などに対して文化、芸術、農林水産各産業、教育など各種体験を含んだ取り組みや、その支援および施設運営に関する交流事業などを実施。
- 安芸太田町では平成27年度から宿泊施設を併設した貸し農園を指定管理者として業務運営し、平成30年度からはキャンプ場を含む自然公園も受託。
- 広島市内の横川商店街エリアでは仮想空間に横川エリアを創り、地域連携や交流を促進する横川メタバースプロジェクトを実施。
- 街とデジタルが融合した新しいテクノロジーを子どもたちに体験してもらうAR（拡張現実）体験の場の提供も行う。

# 活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域の内・外や年齢・性別・国籍を問わず、誰もが参加できる「場」が提供され、そこから次々と新しいプロジェクトが生まれ続け、地域経済の活性化、地域社会の発展および美しい自然環境が永続する状態

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

安芸太田町内で観光に関わる事業者・団体・個人および教育関係者、ならびに町外の企業・団体・教育関係者と、課題に応じた様々な意見が生まれる「場」を創り、魅力的なコンテンツを創出する

ローカルSDGs事業として取り組む内容

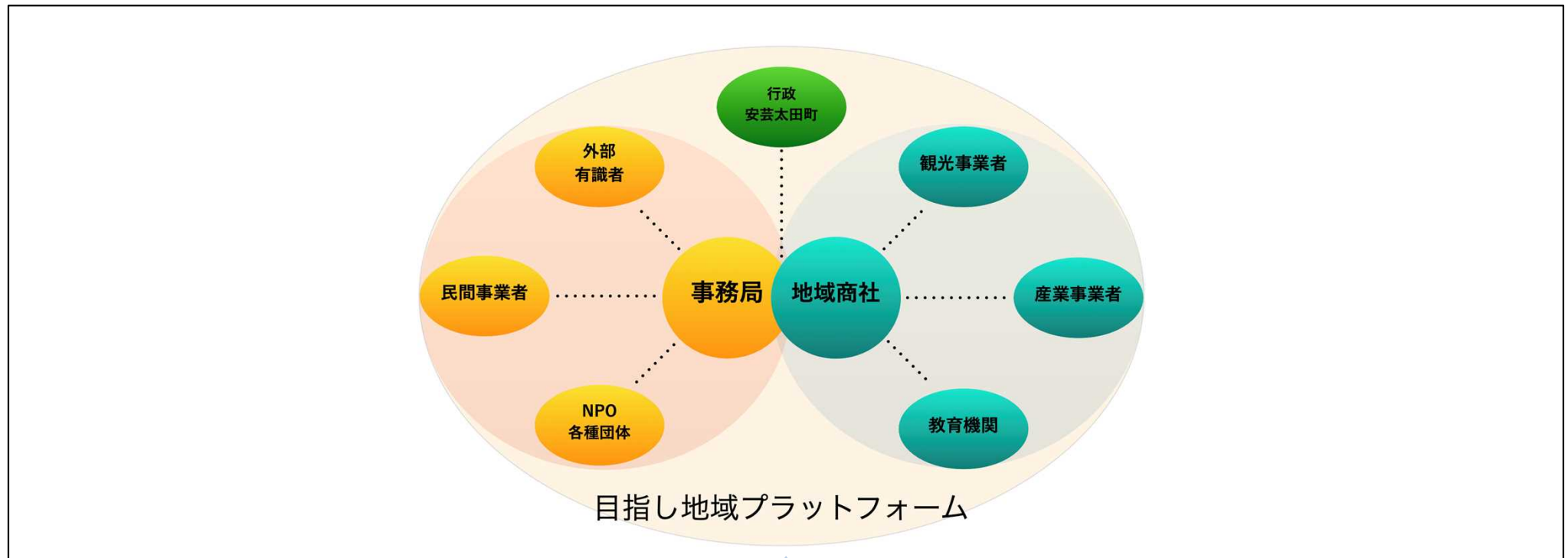
- 森林セラピーロード周遊型観光事業
- ヘルスツーリズム循環・体験プログラム事業
- 里山ガイド育成事業

地域の現状

- 広島市街地のデルタ地帯を構成する太田川の源流が流れ、国の特別名勝「三段峡」やパウダースノーが楽しめる恐羅漢山等自然豊かな里山である
- このまちを良くしたいという思いを持った人はいるが、つながる「場」が無い

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制



足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

ヒト：働き手（後継者不足など含む）

モノ：人々が定期的に交流できる場、地域内における移動手段

資金：新たな事業などを行う際の資金

情報：共有できる伝達手段（お互いのニーズや可能性を把握しきれていない）

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

持続可能な周遊型体験プログラムが確立し、運用されるようになる。

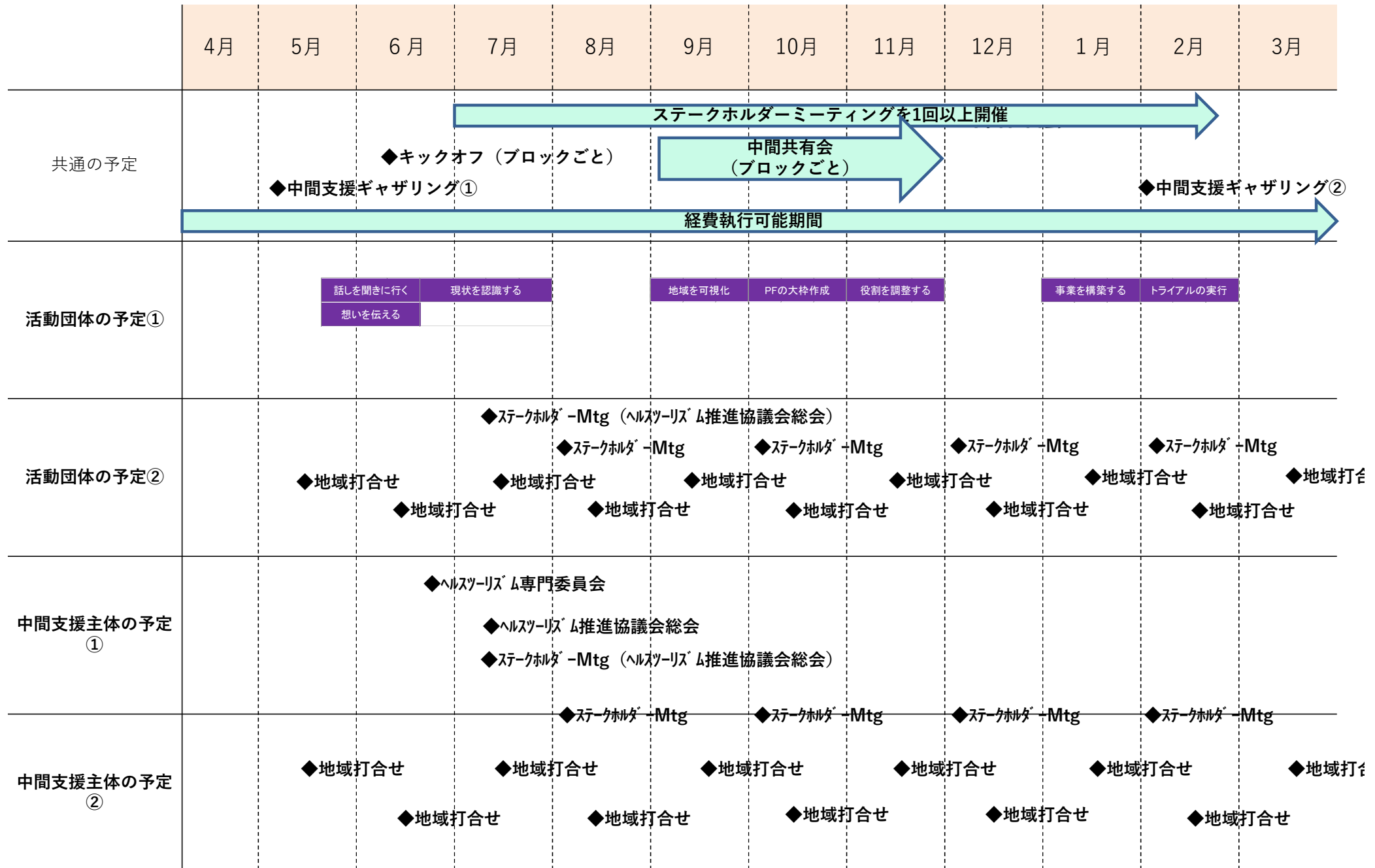
## 2025年度末の状態目標

ステークホルダー同士のコミュニケーションがより密になり課題に共に取り組むことで一体感も生まれ、より実施可能な周遊型体験プログラムを具体的に作成、試行するようになる。

## 2024年度末の状態目標

意見交換や情報共有の「場づくり」の機会が確保されることでお互いの課題を認識。そうすることでコミュニケーションがより図られ地域の理解も深まり、関連するステークホルダー同士の信頼関係も構築される。

# 活動計画



# 中間支援主体より

## 中間支援主体の紹介

- 安芸太田町及び周辺地域の産業の活発化による地域振興の推進を目的として平成30年1月に設立、代表理事は安芸太田町長。
- 令和3年11月に観光庁の観光地域づくり法人（DMO）に認定登録
- 道の駅「来夢とごうち」の指定管理者として売店、ECサイト事業を展開し、特産品を活用した商品開発と販路開拓を実施。
- 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会、安芸太田町田舎体験推進協議会の事務局運営を通して、森林セラピーや教育旅行における民泊体験、ダム湖を活用したウォーターアクティビティ等を推進。

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

- 活動団体は、外と内の両方の目線で当地域を見ることができ、地域の課題に対してこれから動き始めようとしており、伸びしろを十分に感じる。
- 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会の組織の活用。
- 外部の企業・団体や有識者等との連携